

令和7年度 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進協議会 概要

1. 会議の開催概要と推進プログラム改訂の経過

令和7(2025)年度は、第二期プログラムとして策定された「支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラム」の計画最終年度となることをふまえ、第三期目となる次期プログラムの策定検討を主な議題として以下の3つの会議を開催した。

- (1) 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進プログラム改訂案に関する意見交換会（意見交換会）
- (2) 支笏湖地区定山溪地区合同部会（合同部会）
- (3) 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進協議会（協議会(総会)）

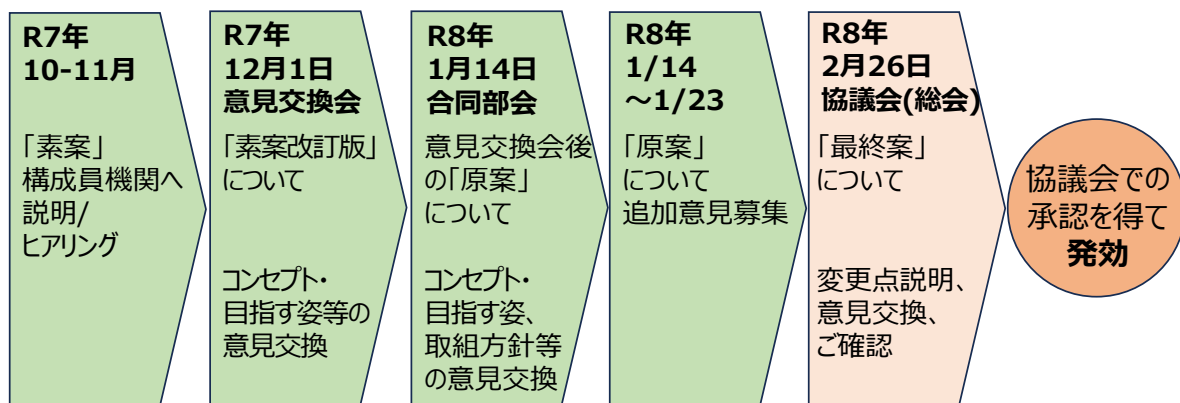
これまで各地区の個別課題の議論を行う場として意見交換会を開催していたが、今年度は次期プログラムの策定に向け、事務局が提示した次期プログラム素案に対する構成員からの意見聴取結果をふまえた、次期プログラム素案改訂版について議論を行った。また、支笏湖地区、定山溪地区の各部会を合同部会として開催し、意見交換会の議論をふまえた、次期プログラム原案について議論を行った。協議会(総会)では、合同部会での議論もふまえて修正した次期プログラム最終案について協議を行った。協議会における協議の結果、令和12(2030)年度を目標とする次期プログラムとして「支笏湖・定山溪地区満喫プロジェクトステップアッププログラム2030（以下、SUP2030）」が承認され、次期プログラムに合わせた協議会名称等の変更に係る協議会設置要綱の改訂についても承認された。

また、上述の次期プログラムの策定検討の中で、次期プログラムに掲げる各種取組を「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」にも準拠した取組として推進していくことを確認し、JSTS-D ロゴ認証を受けることについても承認されたことを受け、協議会事務局より北海道運輸局へロゴ認証承認申請を行い、令和8年3月に認証を取得した。なお、JSTS-D ロゴマークは、SUP2030の表紙に表示している。

令和7(2025)年度支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進協議会の会議開催概要

会議	日時	場所等	議事内容
意見交換会	令和7(2025)年 12月1日 13:30～15:30	北農健保会館 オンライン会議室 併設	(1) 次期プログラム素案改訂版について説明 ・スケジュール/次期プログラム素案改訂版の概要 (2) 次期プログラム素案改訂版について意見交換 ・強みと課題/コンセプト/取組の基本方針 ・成果指標と状況指標/進捗の確認及び修正、改善
合同部会	令和8(2026)年 1月14日 13:30～15:30	札幌市教育文化会館 オンライン会議室 併設	(1) 次期プログラム原案の変更箇所について説明 (2) 次期プログラム原案についての意見交換 「コンセプト(目指す姿)と取組の方針」
協議会(総会)	令和8(2026)年 2月26日 13:30～15:30	札幌市教育文化会館 オンライン会議室 併設	(1) 設置要綱及び次期プログラムの改訂趣旨について説明 (2) 設置要綱及び次期プログラム最終案の説明確認 (3) 設置要綱及び次期プログラムの改訂について承認

次期プログラム策定検討経過



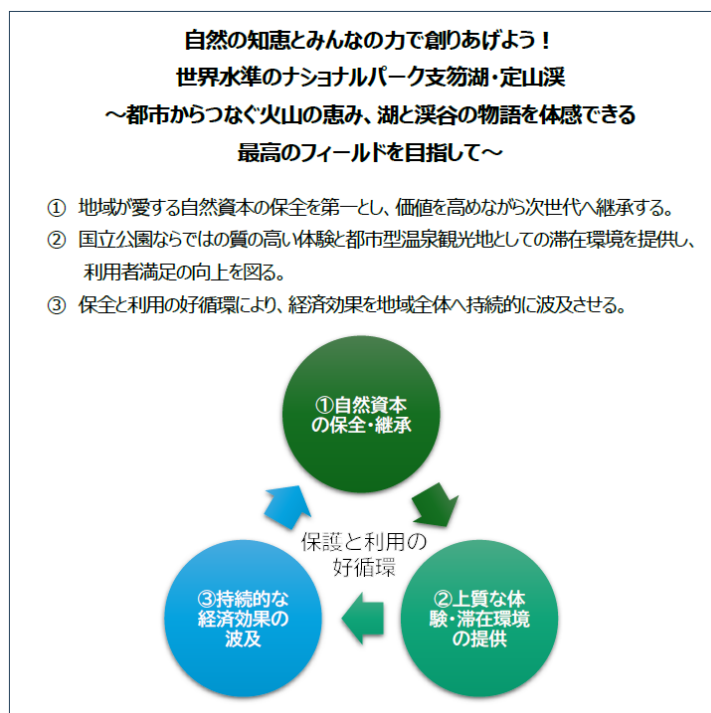
2. 支笏湖・定山溪地区満喫プロジェクトステップアッププログラム 2030 の特徴

今年度策定された次期プログラム「支笏湖・定山溪地区満喫プロジェクトステップアッププログラム 2030」の主な特徴を以下に示す。

【支笏湖・定山溪地区の強みや特徴を踏まえコンセプト(目指す姿=目標)を設定】

第二期プログラムまでは観光入込統計データ等の数値目標を目標として設定していたが、構成員機関の取組と取組による成果としての因果関係が見えづらい目標であった。そのため、こうした数値目標ではない、実現したい当地区の姿やそのための行動原則を共通認識とするためのコンセプトを設定し、これを次期プログラムの目標とした。コンセプトの設定にあたっては、当地区の強みである湖や溪谷、火山等の特徴的な自然景観、都市や空港に近接していることをふまえ、構成員機関と議論を重ねつつ検討を深め、以下の総合スローガンと3つの行動原則からなる内容として整理している。

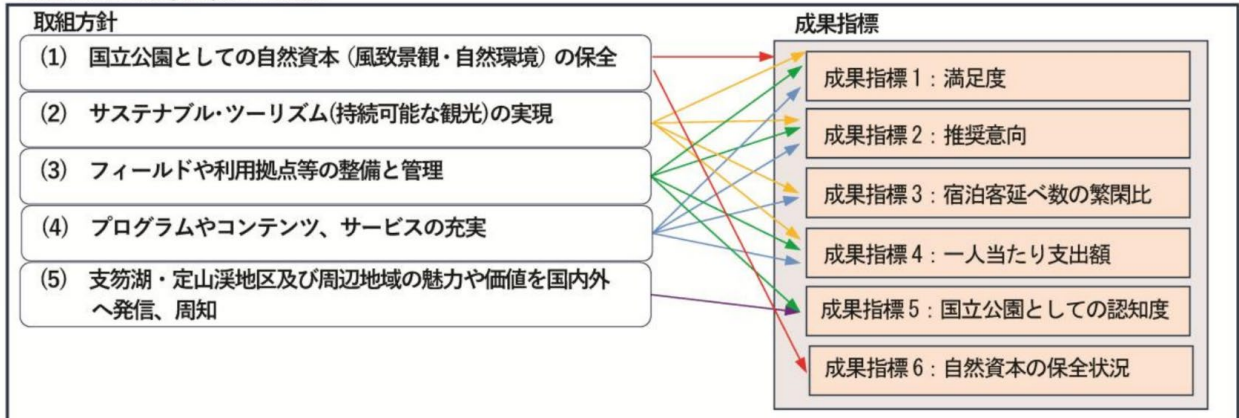
プログラムのコンセプト



【取組方針の再整理と成果指標の設定】

第二期プログラムにおける取組に関する方針は、7つの基本方針として設定していたが次期プログラムでは、新たに設定したコンセプト（目指す姿）の実現をふまえ、7つの基本方針をベースに追加・統合のうえ、5つの「取組方針」として、新たに設定した。また、取組方針に基づく、各構成員機関が実施する取組成果の総和を確認するための指標として6つの成果指標を設定。評価基準は、令和6年度結果より数値等が向上することとし、満足度や推奨意向など質的な指標も導入した。さらに第二期プログラムの目標としていた観光入込数などの統計データ等は、成果指標の分析、社会状況の変化等を把握するための状況指標として整理。これらの二つの指標の状況を継続的に確認していきながら、必要に応じて取組の見直し等へのフィードバックを行いつつプログラムを推進していく。

取組方針と成果指標との関係



【取組対象を国立公園利用全般と保全に資する取組へ整理・拡充】

第二期プログラムでは、自然体験活動に係る取組の推進に重きをおいた内容であったが、次期プログラムは、国立公園の持続可能な利用全般の推進に係る取組に加え、保全に資する取組も対象とする幅広い内容となるよう、整理・拡充を行った。また、取組内容の整理・拡充に伴い、プログラム名称を「自然体験活動推進プログラム」から「満喫プロジェクトステップアッププログラム」へ変更した。

【日本の国立公園制度や国立公園満喫プロジェクトを共通理解として明記】

公園管理者である環境省、構成員機関をはじめ様々な主体による管理運営が前提としたわが国の国立公園制度の特徴や仕組み、国立公園のブランド化を進める満喫プロジェクト等、国立公園に関わる基本的な情報を共通理解として、プログラムに明記した。